

## 令和元年度 香芝市環境審議会 要約会議録

■ 日 時：令和2年2月17日（日）午前10時00分から午前11時40分

■ 場 所：香芝市役所本庁舎3階 第1会議室

■ 審議内容 (1)副会長の選出  
(2)第2次ごみ減量と資源化の推進計画の策定について  
(3)その他

### 1 開会

### 2 部長挨拶

### 3 新任委員の紹介

### 4 事務局事務連絡

- ・配布資料の確認
- ・出欠確認の報告 ※ 審議会委員8名中7名出席により審議会成立の報告  
(香芝市環境審議会規則第5条第2項)  
\*残り1名については、公務のため途中から出席
- ・傍聴希望者の報告 ※ 傍聴希望者なし

### 5 議題

#### (1) 副会長の選出について

##### ○会長

事務局より報告があったとおり、傍聴希望者がおられないのでこのまま議題に入る。

先ほど、新任の審議会委員のご紹介があったとおり、昨年度まで副会長の任を担っていた  
だいていた、前香芝市自治連合会会長がご退任されたので、副会長の選出を行う必要があ  
る。なお、副会長の選出については、『香芝市環境審議会規則』4条第2項に基づき、「委員の  
互選により定める。」となっていることから、選出について意見を伺う。

##### ○委員

事務局の意見を伺いたい。

##### □事務局

事務局としては、前副会長を選出した際に、環境問題について取り組む上では、市民の力  
無くしては出来ないものであることから、自治会を代表されている、香芝市自治連合会会長  
に副会長をお願いした経緯がある。このことから、引き続き、後任に副会長をお願いするの  
が良いかと考える。

##### ○委員一同

各委員、「異議なし」

##### ○会長

なお、これまで、香芝市環境審議会運営基準第4条に基づき、会長の指名により、会議録  
署名委員について、引き続き、副会長を指名する。

## (2) 「第2次ごみ減量と資源化の推進計画」の策定について

### ○会長

それでは、続いて、議事2「第2次ごみ減量と資源化の推進計画の策定について」であるが、本日は、事務局が作成した計画案について、審議会に諮問いただき、審議会として答申するという形になるので、まずは、計画案について、事務局より説明願う。

### □事務局

- 資料をもとに、
- ・計画の背景や削減目標等の主要項目
  - ・削減目標を達成するための取組を説明
  - ・この内容でパブリックコメントを実施した結果についての説明

本計画については、条例等で審議会への諮問を義務付けられたものではないが、先ほど説明した重要施策にも掲げているとおり、審議会への意見を求めた上で、計画策定完了としたいと考えているので、慎重ご審議のうえ、答申いただきたい旨を伝える。

### ○会長

計画案の16ページ以降は、かなり具体的な取り組みが記載されているので、意見のまとめ方として、二段構えで考えたい。まずは、本計画案について原案了承するかについてご意見をいただき、その後、16ページ以降の取り組みに対して、更に具体的なアイデア等があれば、意見を求めたいと思う。

それでは、まず、本計画案について原案了承するかについてご意見をお聞かせ願う。

### ○委員

ごみの有料化について詳しく説明を受けたが、奈良県下では12市中7市が有料化を実施している中で、香芝市は実施できていない。どうして香芝市は遅れているのかという疑問と、有料化すると言っているだけでは只々時間が過ぎていくので、有料化をするのであれば、具体的なスケジュールを作る必要があると考えるが、事務局の意見を伺いたい。

### ⇒(事務局)

有料化の検討については平成18年の第2次香芝市行政改革大綱で既に示されている。これまで、当市のごみ処理場「美濃園」が、本市と王寺町と1市1町で運営していることから、ごみの有料化も足並みを揃えるのが良いとの調整が、以前よりトップ同士で行われてきた。ただ、現状を考えると、本市単独で行っても問題ないとの判断もあり、有料化への検討を進めている。現状において、本市の取り組みが遅れているということは自認しているところである。

今後、有料化を進めるにあたり、本市としては、有料化を図る前に、まずは引続きごみ減量を可能な限り行うことが必要であるという考えの下、本計画を策定することや、昨日実施したリユース市を開催するなどをし、減量に向けて取り組んでいく。しかし、計画では高い目標を掲げていることから、簡単に達成できるものではないとは考えている。

このことから、有料化については、将来実施することを見据えていることは間違いないが、まずは市民のコンセンサスを十分にとる必要があることから、かなりの周知期間を持つ必要があると考えている。

具体的な時期については、断言することはできないが、令和4年度に新しい「美濃園」ができるため、視覚的にも費用が掛かることが分かり、理解が得られやすいとも考えられるので、一つの目途として考えている。有料化は、市民に負担を求める前に、まずは行政ができる事を行ってまいりたいと考える。

⇒ (会長)

有料化ありきではなく、目的はごみを減らすことである。もしばらくは、意識啓発によって行動を変えていただき、それでも達成できない場合は負担を強いるということであると思う。

## ○委員

先行して有料化を行っている7市は、粗大ごみと可燃ごみ両方とも行っているのか。それとも、可燃ごみだけなのか。

⇒ (事務局)

両方行っているところもある。

⇒ (委員)

有料化という事は、お金を介在させることである。お金を介在させると、ごみ減量に対して非常にスピード感がでることから、とても理にかなっていると考える。ただ一方で、個人的には、今のように粗大ごみを無料で引き取っていただくと、非常に申し訳ないという意識が働くが、有料となるとお金を払っているのだから、大きな顔をして出せるようになる側面もあると思う。お金を介在させて行政を進める事には、良い側面がある一方で、悪い側面もあると言える。

15年程前にドイツのごみ有料化のテレビ放送を見て、すごく進んでいると感じていた。日本においても近い将来なるだろうと思っていたが、本市は未だに実現していないという事で、本当に遅れているとつくづく感じる。

そういう意味では、しっかりとしたスケジュールを作ってそれに沿って実行していく方法が良いのではないかと考える。

⇒ (会長)

委員の意見を参考にして進めていただきたい。

環境配慮を求めるやり方としては、啓発（意識を高め環境配慮の行動を増やす）・誘導（有料化等で行動を促す）・規制（取り締まる）という三段階がある。まずは、啓発をし、それでもだめなら誘導、規制と進めていく。香芝市の場合は、まずは引続き啓発をやっていき、それでもだめなら誘導に切り替えるというような形でやっていくということなので、その辺りをまた、考えながらやっていただきたい。

## ○委員

計画案の7ページを見ると、市民1日一人当たりのごみ量の推移では、減量が図られていることがわかるが、一番大きな要因は何か。

⇒ (事務局)

5 ページに記載する分別区分ごとのごみ量の推移を見ると、特にこの品目が大幅に減少しているというのではなく、可燃ごみ及び不燃・粗大ごみそれぞれが減少している状況である。丁寧な分別区分ごとのごみ回収と、啓発等の影響もあるかと思うが、ひとえに市民の皆様の日々の努力の結果だと考える。

⇒ (委員)

市民一人ひとりが更に努力すれば、まだまだごみが減る可能性があるという事だと考える。市民にもごみ減量が図られているということも、しっかりと報告すること。

⇒ (会長)

ここ数年はごみ量が減っている中で、平成 30 年度でごみ量が増えている。これは恐らく、景気が持ち直し、消費行動が増えたことが影響していると考えられる。モノは、やがてごみに変わるので、景気動向とごみの量というはある意味反比例する。市としても、今後のごみ量を注視して、このまま増加しないように頑張っていたいただきたいと思います。

○委員

計画案の 11 ページを見ると、「現在の取り組み内容等」に環境学習を挙げられているが、これまで行ってきた環境学習について、実施している回数等の実績はどうなっているのか。

⇒ (事務局)

直近 3 年間の実績となるが、

- ・平成 31 年度：9 校/734 人
- ・平成 30 年度：9 校/811 人
- ・平成 29 年度：10 校/計 918 人

毎年、1,000 人近い小学生にごみを取り巻く環境や、分別の仕方等を説明している。また、小学生を対象にする意味としては、小さい頃に学ぶことで、大きくなった時にまたその内容を伝えていただくなど、知識を循環してもらおうという狙いがあるので、引き続き、環境学習を行っていきたい。

⇒ (委員)

小学生に対する環境学習の枠を増やすこともそうであるが、新しくできる「美濃園」についても、施設見学を実施するなど、様々なことを考えて取り組んでいただきたい。

○委員

計画案の 26 ページを見ると、有料化の一方で、分別品目の追加を挙げている。平成 30 年度から使用済小型家電の回収を行っていると思うが、回収状況としては、どうなっているのか。

⇒ (事務局)

使用済小型家電回収については、新たな資源ごみ回収品目として平成 30 年 10 月から回収を開始し、当初は、(携帯電話・デジタルカメラ・小型ビデオカメラ・IC レコーダー・携帯ゲーム機・携帯オーディオプレーヤー・電子辞書・USB メモリ・付属品) の品目のみで回収を行っていた。

更に、回収量の増加を目指し、令和元年12月より（携帯ラジオ・卓上型ゲーム機・ノートPC・ルーター）を新たに追加している。

実績としては、  
・平成30年度：234品目  
・令和元年度：803品目 である。

⇒ （委員）

この回収については、今後も増える可能性があるので、市民の方への周知をしっかりとやっていただきたい。

### ○委員

計画案の6ページに記載がある「人口とごみ量の推移」のグラフだが、一見すると、人口の増減が激しく変動しているように見えるが、人口を示すグラフは、74,500人ベースから始まり、500人単位で示されている。一方で、ごみ量を示すグラフは、0ベースで、5,000t単位で示されている。見方によっては、恣意的にデータを使っているように取られるので、気を付けた方がよい。今回の場合は、人口の推移をわかりやすくするために、このようにしたと考えられるが、違和感がある。直す必要はないかと思うが、今後気を付けた方がいい。

### ○委員

リユース市は、減量化・資源化の目標にどのように影響するのかが分かりにくい。リユースを進めることによって、ごみ量の元を減らすことになるのだと思うが、表には現れないので、実は裏でものすごく努力しているというのが伝わりにくい。例えば、経済という機会費用のように示せた方がよいのではないか。リユースによって、本来ごみになるものが減らせているということを、再資源化率のように示せたら、次の計画を立てる時にも、やりやすくなると思う。

⇒ （会長）

ごみの量を計測するのは非常に難しい。ごみの専門家も難しいと言っている。今議論しているリサイクルと言っているのは、市役所で回収しているもののみであるが、市中のリサイクルショップで回収されているものを含めると、全体を把握することができない。

別途、ご意見にあったようなデータをしっかりと把握して、その他の量とともに数字をおさえていただきたい。

通常の場合も、ごみを車両ごと計量し、ごみを降ろした後に再度計量するといった、非常に大雑把な測り方しかできないので、ごみの組成調査も難しい。その辺りの限界もあるかと思うが、測れるものはしっかりと測り、データとして蓄積していただきたい。

### ○会長

他に意見はあるか。

⇒（他に意見なし）

## ○会長

16 ページ以降のアイデア等の意見は後でいただくとして、とりあえず、現在諮問いただいている計画案について、原案どおり承認するということでよいか。

⇒ (異議なし)

## ○会長

それでは、計画案については原案どおり承認することとするが、まだ時間があるので、先ほどお話ししたとおり、16 ページ以降のアイデアや、詳細の質問はあるか。

## ○委員

環境問題、特に今回議題にあがっているごみの減量について、子どもたちにどのように教育していくかということだが、新しい学習指導要領が、主体的・対話的で深い学びアクティブラーニングを主としているので、子どもたちが、ごみ減量化に関して、自分たちが、何ができるのかを考えるワークショップを各学校で開いていけたらと考えている。そういったワークショップでは、保護者の方も参加していただいて、子どもたちから保護者に働きかけてという形も良いのではないかと考えている。これまでも、環境学習という形で市民衛生課にはやっていたが、そのような場で、専門の部門の方から教えていただくという事も非常に大切であると思っている。

一方、学校の先生方は普段でも授業で手がいっぱいになっており、働き方改革にも取り組んでいるところでもあるので、行政の方から、例えば、児童向けにごみ減量化、大人向けに分別に関する啓発ビデオを作っていたらありがたいと思っている。

また、学校からの可燃ごみで多いのが紙や落ち葉・枝だと思うが、紙に関しては今後のペーパーレス化により減っていく一方、落ち葉や枝に関しては減らないので、専門の方のお知恵等を拝借しながら、腐葉土化ができるようなシステムができればいいなと思っている。

⇒ (会長)

東大阪市では、環境活動の基金を作っており、学校でのそのような活動に使える仕組みを整えている。また、夏休み期間における先生への研修として、私自身や環境部門の職員が行って講義を行っている。SDGs についてもどのように取り組めばいいのかを悩んでいる先生もいると思うので、教職員への研修の中で、きちんと環境のことを知っていただくことも重要である。

⇒ (委員)

ごみ減量に関して、子供たちにもわかりやすいような、やさしい言葉で標語のようなものを考えて市議会の方でも言っていきたいと考える。

⇒ (会長)

委員が言うように、落ち葉だけではなく、給食の残渣についても堆肥化させて、その堆肥を使って食料を育てる。またその食料を給食で使うといったように、学校の中で循環させていくということも良いかと考える。

循環を身近に体験することで、子どもたちが実感できるような仕組みというのも、アイデアをいただいたので、環境部局と教育部局で何か面白い取り組みを進めていただきたいと思います。

## ○会長

3点申し上げたい。

### 1点目：紙の出し方について

30年前と同じような出し方をしている方が今でもいる。雑紙としてうまく回収ができていない場合がある。パンフレットではなかなかわからないといったような声も聞くので、今、どういう出し方をすれば、資源化ができるのかといったように、市には、紙だけではなく、資源物の出し方について、わかりやすい説明をお願いしたい。

### 2点目：吹田市の事例

吹田市では、各地域で行われている夏まつり等の地域行事で“ごみゼロ化”を目指し、地域の方が市の研究員と一緒に取り組んでいる。各地域の行事に参加して、ごみの減量を図るだけではなく、研究員がごみステーションでのごみの分別を指導することで、分別の仕方をようやく理解いただいている。つまり、ごみの分別をどのようにやったらいいのかを、地域行事の中で知ることができる取り組みである。実例としては、2日間の秋祭りで、40袋出ていたごみが、2袋にまで減少したという効果があった。こういうこともお願いしたい。

### 3点目：食品ロスについて

児童福祉や地域の活性化の中で、こども食堂や地域食堂が開かれているが、この食堂の食材に食品ロスの取り組みをうまく絡めていくことができる。コープに協力いただいて、商品の余りを食堂に回していただくような取り組みも進んでいるので、ごみだけを注目するのではなく、福祉や地域活性化にどのように絡ませていくのかといった、分野や部署を超えた連携を取っていただきたい。また、環境部局がコーディネーターになっていただいて、うまく繋げていただくことを期待する。

## ○会長

他に意見はあるか。

⇒（他に意見なし）

## ○会長

それでは、これまで出た意見を参考にしながら、ごみ減量と資源化を進めていただきたい。

### (3) その他

#### ○会長

それでは、本日の議題2が終わったので、次の議題に入る。

次の議題は、その他とあるが、事務局から何かあるか。

⇒ (事務局)

次の点について説明。

#### ● 《 第2次ごみ減量と資源化の推進計画の公表について 》

本計画については、本日の答申を受けた内容をもって当市決裁を取った上で、策定完了とし、今後、HP上での公表となる旨の説明。なお、紙媒体につきましては、情報公開室及び図書館に配置する。

#### ○会長

これで議事は全て終了となるが、全体を通して、また環境に関して意見・質問はあるか。

#### ○委員

パブリックコメントを実施してご意見がなかったとのことだが、本計画は身近な問題で、関心としても高く、非常に提出しやすい内容であると思うので、意外に感じている。

⇒ (事務局)

事務局としても、前年度実施した「香芝市環境基本計画（第二次）」のパブリックコメントでは、複数のコメントを提出いただいていたので、今回の結果については、意外に感じている。

⇒ (会長)

パブリックコメントについては、手に取って見てもらうということが重要であるが、設置した計画案については、工夫等はしているか。

⇒ (事務局)

前年度実施した「香芝市環境基本計画（第二次）」のパブリックコメントと同様の設置の仕方、透明のクリアファイルで表紙がしっかりと見えるものを使用している。また、環境キャラクターを付して、幅広い世代の方に手に取ってもらえるよう工夫した。なお、実際に手に取って、お読みいただいている方もいたが、ご意見としては提出がなかった。

#### ○会長

他に意見はあるか。

#### ○副会長

パブリックコメントに関してだが、本計画は一般の人からすると、興味のわかない、意見が出にくいものであると思う。関心はあっても、一般の人であれば、回答に至らないものではないか。例えば、ここにごみ有料化についてはどうかと書いていけば、何らかの意見が出てくると思う。



ごみ減量については、有料化するのが一番手っ取り早いのであろうと考えるが、当審議会でいくら有料化をすと言っても、議会を通らないといけなし、市長が賛成しなければならないといった関門がたくさんある。議員については、まず賛成しにくい内容であろうという思いがあるし、市長の公約の中では、ごみを無料にしているということのを売りにしている面もあるので、なかなか、進みにくいという気がする。その辺りをどのように整合性を図っていくのか、審議会が強い答申を出すのかということも、これから考えていかなければならない。

食品ロスについては、意見の中で、学校でという意見もあったが、働き方改革の委員も担っている者としては、学校の先生にこれからまだ仕事を増やすのもいかなものかと感じる。学校で、先生に教育して下さいというのは簡単だが、現場ではまた仕事が増えるという問題がある。立場によって考え方も変わると思うので、その辺りも考えて進めていただきたい。

学校給食の残渣についてだが、五位堂では池で羊を飼育しており、冬場は草が生えないので、エサとして、小学校の食品残渣を利用しているといった取り組みをしている。

⇒ (会長)

様々な地方公共団体の環境審議会委員をしているが、やはりトップのやる気であると感じている。様々な障壁が出てくると思うが、頑張っていたきたい。市役所の方にはいつも言うが、課の名前もどれだけ環境に取り組んでいるかを表している。残念ながら、“環境”という文字がない。環境施策がもっとクローズアップされるように頑張っていたきたい。

○会長

他に意見はあるか。

○事務局

本日公務のため、欠席の予定であった委員が駆けつけていただいた。欠席の予定であったため、事前にご意見をいただいていたので、事務局より報告する。

・食品ロスに関する啓発に関して

⇒ 食品ロスに関しては、事業者の取り組みが必須。事業者向きの啓発についてしっかり行っていただきたい。

・バザー等の開催による再使用の啓発

⇒ この事業は、行政がやるのではなく民間活力として専門業者に委ねるべきではないか。

⇒ メルカリ等、ネット上でのリユースの仕方について、レクチャーができないか。

・集団資源回収の奨励・促進

⇒ 学校の負担にも繋がるかもしれないが、学校でペットボトルの回収ができないか。

⇒ (会長)

情報提供として、生駒市では、「もったいない食器市」ということを行っている。生駒在住の女性が数十年前にたった一人で始めた取り組みが、生駒市役所を動かし、そして全国に広がった。頑張ってください市民が一人でもいれば、凄いことができる典型的な事例である。香芝市の中でも、出来るだけそういった取り組みを一つでも増やしていくという事を行っていただきたい。

また、その女性が住む地域では、元気のいい女性が多く住んでいて、非常に面白い取り組みが今でも数多く行われている。全市で行うということも大事であるが、先ほど、副会長から五位堂の話が出たが、地域で頑張っていただけの人が多いところをモデル地域として取り組み、それを少しずつでも増やしていくということも検討していただければと思う。

○会長

他に意見はあるか。

⇒ (他に意見なし)

○会長

それでは、これで本日の全ての議事が終了するが、事務局から最後に事務連絡はあるか。

⇒ (事務局)

● 《 今後の審議会の開催予定について 》

「香芝市環境基本計画（第二次）」の進行管理にあるように毎年度進捗管理を行い、審議会において、報告等を行う事を検討している。時期としては、年度が替わり、各指標に対する担当課の進捗確認等を行ったうえで、報告する予定であるため、令和2年度上半期までには、再度開催案内をさせていただく旨の説明。

6 開会

以上